

PTA

やまがた

第35号

平成23年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 武田 岳彦

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『築こう
子どもたちの笑顔溢れるふるさとを』

～できることから始めよう 行動が未来をつくる～

「伝えよう」

生きる喜び」

山形県PTA連合会 会長 武田 岳彦



常

日頃より、山形県PTA連合会の活動に、暖かいご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

また、それぞれの学校、地域において、子どもたちを育む環境づくりに、ご尽力を頂いておりますことに、心から感謝を申し上げます。

日本における人々の暮らしは、昔に比べると、格段に豊かになりました。しかし、便利で豊かに思われる社会には、様々な問題が隠されています。

ることに、私たちは気がつきました。技術や物に対する欲求を追い求めることに夢中になり、生きる喜びを見失ってしまった気がします。

私たち自身が、命の素晴らしさ、生きることの素晴らしさを感じ、次世代を担う子どもたちに伝えることで未来は築かれていくのだと思います。私たちは、大人の責任として、子どもたちに、生きる喜びを伝えていかなくはなりません。

今年度、山形県PTA連合会は、「築こう 子どもたちの笑顔溢れるふるさとを」～できることから始めよう 行動が未来をつくる～のローガンの下、様々な活動を展開してきました。

第五十八回日本PTA全国研究大会 ちば大会や第四十二回東北ブロック研究大会 八戸大会には、県内各地より多くの皆様に参加してい

ただき、たくさん学びを持ち帰っていたきました。日本各地のPTA会員と交流することは、山形県の活動を検証する意味で重要なことだと考えています。

また、「第六十二回山形県PTA連合会研修大会」を、山形市において開催し、千三百名を超える皆様に参加をいただきました。山形県教育委員会委員長の長南博昭氏による記念講演をはじめ、PTAが取り組むべき課題をテーマに、五つの分科会を開催し、多くの学びを得ることができました。大会を通して、参加者の熱意が反応し合い、新しいエネルギーが生まれた素晴らしい大会でした。

母親の目線で子どもたちを考える母親委員会の活動では、日ごろ、子どもたちと接する時間の多い母親ならではの視点から、子育ての悩みや課題の解決に向けて活動をしました。教育委員会と高校PTA連合会との合同懇談会では、小、中、高と年代により、取り組む内容が違ふことを改めて感じました。

県内各地区との情報交換機能は、県PTA連合会という組織ならではのものです、山形県の教育を面で捉え

る意味で、この連携は必要不可欠だと考えています。

今年度の活動を振り返り、全国との交流や東北地区との情報交換などで、山形県の学校と保護者の信頼関係、それを支える地域の力は、全国に誇るべきものであると強く感じました。これもひとえに、県PTAの歴史の中で、時々の保護者の皆さんが、真剣に子どもたちを育む環境を築いてきたからに他なりません。

山形県PTA連合会は、この歴史を継承し、力を合わせて、山形県が「子どもたちの笑顔溢れるふるさと」になるよう努力をしてみたいです。

これからも皆様方の暖かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



変化の中で変わらないもの



山形市立第一中学校校長

海老名陽一

『親と教師が、「いのち」を、自分の言葉で、生の声で、子どもに伝えよう。』平成十七年十一月開催の第五回合同教育懇談会で、当時の県PTA連合副会長さんが発言されたことの要旨です。以来私は、折に触れてその意味を噛み締めながら、機会ある毎に伝えてきました。「いのちの教育」を中核にした「第五次山形県教育振興計画」。平成十七年度を初年度とした計画の中間年にあたる今年度。その充実発展を期して、広い視野からの見直し検討が進められています。しかし、「いのちの尊さと人間としての生き方をしっかり教える」という計画の柱に、何ら変

動はないようです。

一方で、新しい学習指導要領による学習を、まずは小学校で本格実施する年になりました。これまでも学習指導要領は改訂のたびに、学習内容の改変がありましたし、学力観にも時代が反映されてきました。しかし、「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」、いいかえれば、「知・徳・体の調和」。これを重視しながら子どもたちを育んでいく、という点では何も変わっていないといえるでしょう。

時代が変わり社会が変化しても変わらないもの。それは、大人が、時としては自らの失敗体験をもあからさまにしなが、自らが懸命に生き続けているその後ろ姿で語ること。そして、「いのち」の崇高さと可能性“とを、生き続けることの喜びを、子どもたちに伝える大切さ、なのかもしれません。



県PTA研修大会山形大会を終えて



研修大会実行委員長
(山七中PTA会長)

青木哲志

昨年十月に山形ビッグウィングで開催しました第六十二回山形県PTA研修大会山形大会につきましては、県内各地区より千三百名を超える多くのPTA会員の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

今大会は、「未来を主体的に切り拓く力を求めて」家庭・学校・地域の調和のある関わりを通して「をテーマとしました。IT社会の進展や少子高齢化・家族化の進行などにより、家庭や地域社会の教育力・若年層の社会性の低下が指摘されています。このような状況の中で、「家庭」・「学校」・「地域」の調和ある関わりや活動などの課題

解決の糸口を研修大会を通して見いだせればと思ひ準備を進めてまいりました。五つのテーマに分かれての分科会。記念講演は山形県教育委員会委員長 長南博昭氏を講師に迎え「子どもが育つ四体験」について話をいただきました。そして、初めての企画として分科会終了後に「交流会」を開催し、分科会で話し合った内容の情報交換を行い、会員皆さんのPTA活動に対する熱い情熱を感じたところです。

この紙面が皆様に届くころは、来年度の役員体制や事業計画の検討をしている時期だと思います。研修大会の成果は、参加された会員が研修会で感じた事や情報を持ち帰るだけでなく、各PTAの会員にいかにか伝えるか、そして今後の活動に活かせるかだと思っております。子どもたちの元気な笑顔を見るため、参加者一人ひとりが研修会の成果を仲間

に伝え・引き継ぎ、活動の糧となってくれば幸いです。最後に、本大会を開催するにあたり、ご協力、ご支援をいただきました関係各位に心から感謝申し上げますとともに、第六十三回西置賜大会の成功をご祈念申し上げます。

山形県PTA母親委員会の活動報告



県PTA母親委員長
高橋 裕美

「命」の尊さ 大切さ
のテーマのもと、

一年間、皆様にご指導いただき、支えられながら、活動できましたこと心より感謝申し上げます。また、各郡・市PTAにおきましては、それぞれの状況を踏まえ、活発に活動が展開されましたことにお礼申し上げます。

今年度は、県P研修大会において第四分科会（家庭教育）を母親委員会が担当したこともあり、分科会のテーマ「かわる喜び」つながる心」で、事前研修を行いました。心の通いあうコミュニケーションについて学びました。また、今年度は、すでに県内でも子宮頸がんワクチンが、市町村の助成を受けて、一部で接種が始まりました。母親として、女性として、まず、病気を知ることから始めよ

うということ、子宮頸がんワクチンについて研修を行いました。親が正しい知識を得ることで接種の際の判断の一つとしていただくとともに、子どもたちへ自分の命を守ることにつながるということを伝えたいと思います。親が今、できることのひとつではないでしょうか。

第一回母親委員会 六月十日

- ・ 正副委員長選出
- ・ 活動計画及び情報交換
- ・ 研修「一人ひとりが生き生きと輝くために、話して動いて考えよう」

講師 川中 真氏

第二回母親委員会 九月十六日

- ・ 各研究大会の報告及び情報交換
- ・ 研修「かわる喜び つながる心」

講師 舩田 忠雄氏

第三回母親委員会 十一月

- ・ 「母親委員会だより」作成案
- ・ 県PTA研修大会等の報告
- ・ 情報交換

県教育委員会と県P連・高P連の合同教育懇談会参加

第四回母親委員会

平成二十三年二月十日

- ・ 「母親委員会だより」について
- ・ 今年度の反省及び情報交換
- ・ 研修「知れば防げる子宮頸がん！ ～ワクチンと検診は車の両輪～」

講師 井上 聡子氏

各地区の主な活動報告

◎山形市 高橋 裕美

- ・ 母親委員会（年三回）
- ・ 研修「かわる喜び つながる心」

舩田 忠雄氏

- ・ 県PTA研修大会山形大会（十月）第四分科会
- ・ 「かわる喜び つながる心」運営担当

- ・ 拡大母親委員会講演会（十一月）

- ・ 拡大母親委員会講演会

- ・ 「子どもと自分が輝く魔法の質問」

マツダミヒロ氏

- ・ 母親委員会だより「マザーズねつとわく」三月発行

- ◎上山市 瀧口 典
- ・ 母親委員会（年二回）
- ・ 研修会（十一月）

- ・ 和菓子作り体験

- ◎天童・東村山地区 松本 佳子氏
- ・ 母親委員会（年二回）
- ・ 母の集い

- ・ 「大人が変われば子どもも変わる」

- ◎西村山地区 マツダミヒロ氏
- ・ 母親委員会（年二回）
- ・ 「We can! ビューティー&リフレッシュ」ボディヒーリング

- ・ 小林 敏子

- ◎北村山地区 高橋 美香
- ・ 北村山PTA研究集会（九月）
- ・ 各市町・単Pでの活動

- ・ 鳥田千津子

- ◎最上地区 高橋 律子
- ・ 代表母親委員会（年三回）
- ・ 研修「子どもの活力は食育から」

- ・ 山口 喜代美氏
- ・ 母親委員会だより「かあちゃんほっとらいん」二月発行

- ◎米沢市 玄番 京子
- ・ 母親委員会（年四回）
- ・ 講演「思春期からの性教育」（年三回）

- ◎東置賜地区 鹿俣 修氏
- ・ 各単Pの専門部との合同事業を実施する等それぞれの単Pで活動



◎西置賜地区 村井 春美

- ・ 母親委員会（年三回）
- ・ おたより 二月発行

- ◎鶴岡市 佐藤 貴子
- ・ 母親委員会（年二回）

- ・ 「我が家の一文字」キャンペーン

- ◎東田川地区 齋藤 明美
- ・ 母親委員会（年二回）

- ◎酒田市 高橋ルリ子
- ・ 母親委員会（年二回）
- ・ 酒田市P連研修大会協力

- ・ 講演「やる気と能力を引き出す魔法の質問」

- ◎飽海地区 マツダミヒロ氏
- ・ 母親委員会（年三回）
- ・ 研修「子どもの便秘と食生活」

- ・ 池田 陽子氏

- ・ 鈴木 明子

- ・ 母親委員会だより二月発行

「子どもを取り巻く社会環境の整備・充実の方策を考える」 ～保護者、学校、行政からの支援の在り方～

今、子どもたちは、便利で、物があふれ、豊かな社会の中で様々な問題を抱えています。そして、将来の夢、やる気、人や物、自分を大切にできる気持など、人間として大切なものを失っているようにも思えます。子どもを含め、我々を取り巻く社会環境は、人間関係の希薄化、匿名社会へと急速に進行しており、PTA役員の果たすべき役割は、一層その重みを増してきております。次のような視点から子どもを取り巻く社会環境の充実を図るため、どのような支援が求められるか、意見の交換をし、その改善と充実方策を探る。

《話し合いの視点》

- ①PTA役員に求められ、その果たすべき役割
- ②子どもたちを取り巻く社会環境の問題点と支援の方向性

はじめに、上に掲げたテーマにそって懇談会を進めるにあたり、県PTA連合会 中村憲史理事と、県高等学校PTA連合会 今野安治副会長より、話題提供がなされました。お二人の発表を足掛かりに、出席者の皆様より意見を出していただきました。

《視点1》PTA会員に求められ、その果たすべき役割

- ・目標を持つてがんばる子どもを、サポートするのが親。役員には、受験や子どもの心について学ぶ機会も多いので、積極的な参加を。
- ・三役選出等は、入学時から育てるつもりで準備すれば、タテヨコのつながりが深まる。将来のネットワーク作りにも役立つのでは。
- ・見守り隊や挨拶運動等が、子どもの安心・安全に貢献している。
- ・文化祭での屋台等、やろうと思えば色々な活動ができる。誘い方や声かけの工夫が大切では。

《視点2》子どもたちを取り巻く社会環境の問題点と支援の方向性

◎キーワード・就職支援

- ・地元には子が残れるような企業が少なく、とりあえず進学、との考えも増えているようだ。子どもにとっては夢のない時代といえる。
- ・生徒と企業のコーディネーターや各校の進路指導員を増やし、体制作りを進めている。
- ・先生方も、企業まわり等、努力されている。

◎キーワード・キャリアウィーク

- ・地域と子どもを結びつける事に、大きな意義がある。
- ・受け入れ先へのアプローチから子どもにさせる。断られることも学び。
- ・日数や時期、受け入れ先の確保等各校で情報交換しやりくりしている。積極的で暖かい企業もある。

・インターシップを終えた子どもからは、「仕事の大切さが分かり、親への感謝の心が増した。」「あいさつの大切さがわかった。」「命をあずかる事の責任を感じた。」「との声が。親からは、「行った後、よく勉強する様になった。」「親をいたわる様になった」等の声。

・インターシップは日常とはちがう姿を見せてくれる。子どもへの理解としても評価できる。

・キャリア教育は難しく、教員に出来る事にも限界があるので、各方面の協力を得る事が課題である。

・受け入れる側としては、大変だが日数の少なさが残念。大人の働く姿を見せる事が大切。

◎キーワード・ボランティア

- ・大人も手伝い、独居老人宅の雪かきを通して、困っている人からの感謝を体験させたい。
- ・地域のひと話しながら、人の助けとなる事をする喜びがある。
- ・地域に参加する事で、親達の姿を見せ、地域に誇りを持つて欲しい。
- ・下校しながらゴミ拾い。放課後を地域のひとと過ごす事で、子どもの居場所となる

ている。

・雪おろし等は目に見える成果を得られるが、安全面の問題が心配。
・家だけ、学校だけでは子は育たない。先輩としての大人の年代によっても様々な仕掛け作りができるので支援していきたい。

最後に、本日のふりかえりの中で、県教育庁 生涯学習振興課長 井上利也様より、「発達段階にふさわしい、発達段階を見据えた支援を行っていく。この家の子で良かった。といえる子育て、この学校の生徒で良かった。といえる教育を!!」この言葉をいただきました。私たち親へのエールとも言える暖かいメッセージを胸に、懇談会を終りました。

文責・県PTA連合会理事

(副母親委員長 横山 美香)



読みきかせは「愛の時間」



学校図書館アドバイザー

五十嵐 絹子

今、自分の子育てを思い返すと、勤めを持ちながら心の余裕もなく、ただがみがみと子どもをせき立てる毎日でした。ある時、子どもをひどく叱りつけながらふと鏡を見ると、そこには目をつり上げた夜叉が映っているではありませんか。我ながらギョツとして、こんな母ではいけないと反省しても、また同じような日々を繰り返していました。でも、夜寝る時の絵本の読みきかせだけは毎日の習慣にしていました。絵本を読んで早く寝せつけ、残った仕事を片付けたい気持ちで半分、学校司書という仕事柄、絵本を「読んであげ

ねばならない」義務感が半分というのが本音でしたが…。

がみがみ母さんの罪滅ぼしタイム

それでも、親子揃って布団から顔だけ出し絵本を開くと、まぬけなお才カミに笑い、はだして山を駆け下りる豆太にはらはらしたり、子ぶたの知恵に喜んだり、オニに感動したり、共に絵本の世界を楽しみ、一緒に眠りにつくのでした。いつも優しいよい母でいる事は難しいけれど、絵本を読むうち、自分を取り戻すほつとする安らぎの時間になり、がみがみ母さんの罪滅ぼしタイムにもなっていたような気がします。

その子どもたちも中学生や高校生になり、本棚に溢れている絵本ももう出番がなくなりました。ある時、まだ小さい姪たちに絵本を上げようと本棚から抜き出していると、娘が飛んできて「えー、そのため、その本やらないで」と私の手から絵本を取り上げて本棚に戻すのでした。どれも角がすり切れ古びていましたが、毎夜読んで貰った絵本たちは、娘にとって幼い日の思い出が詰まった大切な心の財産だったのでしょいか。

娘たちも母親になりました。昔の絵本がまた登場し、毎夜両脇に息子たちを寝せながら読みきかせをしています。形まで同じです。自分が育てられたように子育てをする、という言葉を思い出します。

読書習慣が学力をアップ

椋鳩十氏が「二十分間親子読書」を提唱したのは今から五十年前。「子どもが本を読むのを聞いて一緒に読書を楽しみましょう」というものでした。テレビが普及し始めた頃です。時代が進み、いま、「親子読書」の大切さがさらに切実な意味合いを持つてきているような気がします。

子どもたちの生活の周辺には、テレビやゲームの映像文化が溢れ、ネットやケータイなど電子機器に囲まれ、身も心も時間も奪われている現実があります。子育てがいっそう難しい時代ではないでしょうか。このようなデジタル時代だからこそ、父や母が生ので、素朴に語る物語の空想世界に浸る読みきかせがとても貴重なことに思われるのです。本を真ん中にして親子のコミュニケーション

ションもはずみです。

国際的な学力調査(PISA)で、本をよく読む生徒と読まない生徒の「読解力」の平均点数が二十五点以上高いことが分かりました。読書習慣が文章を読み解く力と密接に関係しているのです。家庭で読みきかせをしてもらった子どもは、読んで貰わなかった子どもより、読書への興味は約三十ポイント、学校の授業の楽しさは約二十ポイント高いという調査結果もあります。

日々慌ただしく過ぎていき、子どもが育つ時間はあつという間です。自分の子ども時代をふり返つても何と短い限定期間であつたことか。

けんかをしたり、叱られたりいろいろあつても、親子で絵本に浸る時間は優しく気持ちを解きほぐしてくれます。親子一緒に本の世界で遊ぶ嬉しさ…。読みきかせは「愛の時間」なのです。一日、わずか二十分だけでも親子で本を楽しんでみてはいかがでしょう。

県PTA連合会の新事業

「親子読書のすすめ」

山形県の学校での読書活動は、全国的にも高く評価されています。「朝読書」も活発です。また、ボランティアによる「読み聞かせ」の活動も盛んになってきました。しかし家庭での読書はまだまだなようです。そこで、県PTA連合会では「親子読書」をとおして生涯学習を進め、親子で学び、親子のコミュニケーションを活性化させ、子どもも親も一緒に心が豊かになり、成長し、親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願い、この運動を推進することになりました。

「四十年の実践から」

鶴岡市立大山小学校PTA

大山小学校PTA親子読書部の活動の概要を紹介します。設立は昭和四十四年四月で、平成二十二年度は二十九名で活動しています。活動場所は、本の貸し出しや親子読書祭り、お便り「ばんけ」の作成は大山小学校で、回し読書は各家庭で行っています。今年度から、活動場所が大山ユミセンから大山小学校に変わりました。年間の活動回数は十八回以上で、今年度は本の貸し出しを十三回、その内親子読書祭りを七月と十二月に二回行いました。

本校PTAで親子読書活動を始めたのは、新しい図書館ができたことが発端です。昭和四十年に、地元出身の篤志家阪口氏の寄付により立派な図書館ができました。地域住民からも多額の寄付をもらい蔵書も充実しました。その善意に応え、図書館利用の拡大を図り、本好きな子どもを育てよう、読書を通して親子の触れ合いを持つと、親子読書活動が始まりました。当初の熱意や勢いはやや薄れてきているものの、読み聞かせを中心にした親子読書活動を四十年間継続してきています。祖父母、親、子どもと三代にわたって読書

活動を推進してきたことになりました。

活動内容は、主に本の貸し出しと読み聞かせ、親子読書祭り、回し読書、お便り「ばんけ」の作成です。本の貸し出し読み聞かせについては、月一〜二回程度、土曜日の午前中の一時間、部員による本の貸し出しと、一年生の父母がボランティアで紙芝居の読み聞かせを行っています。親子読書祭りについては、年に二回、親子読書部員、大山小学校児童有志、読み聞かせボランティアによる大型紙芝居や絵本の読み聞かせ、パネルシアターやゲームなどの楽しい催しを行っています。毎回親子で百名位の参加があります。回し読書については一クラス五〜六人のグループを作り、各家庭に本を回して親子で読書をしています。回し読書の選本にあたっては研修会を行い、部員がスムーズに選本できるようにしています。お便り「ばんけ」の作成については、月一回、部員が交代で貸し出しのお知らせや本の紹介、親子読書の感想をお便りにのせて、児童のいる全家庭に配布しています。

心の琴線にふれる親子読書

寒河江市立白岩小学校PTA

白岩小学校は寒河江市の校外に位置し、古くは江戸時代に出羽三山詣での六十里越え街道の入口の宿場町として大変賑わった地域です。

また、教育に対する関心も高く、地区民の学校によせる期待も大きいものがあります。

時代の流れと共に少子高齢化が進んでいる事もあり、「家族のつながりがより強まるお手伝いになれば」との思いで、母親委員会の活動のひとつとして平成十五年度より親子読書がスタートしました。

当校は各学年が二十人前後のクラスなので、選んだ本は学年全員の家庭で回覧する、という形を取っています。子どもといっしょに共通の本を読み、お互いどんな感想を持ったかを話してみよう、というのが目的です。

「親子読書」と銘打っていますが、兄弟や祖父母など家族であれば誰だってもいいのです。読書を通して家族同士のコミュニケーションに深みが生まれてきます。

寒河江市では、平成十九年度より「読書の盛んな街づくり」の推進を決めました。それに伴い、市内の小

中学校において読書活動全般に指導と助言を行う「読書活動推進員」を県内初の試みとして選出しました。親子読書の本を選ぶのは、母親委員と担当教師、推進員で行います。

当初は、高学年なら長編を読んでもほしいとの考えもありましたが、仕事から帰宅してからではなかなか長い本を読む時間が取れないと言う話も出て、学年を問わず絵本でもよいのでは、と言う考えになりました。

絵本は短くても絵や文ともに完成された立派なジャンルです。そして、目にも心にも、しっかりと感動を響かせる力を持っているからです。

その親子読書も八年目をむかえ、家族の楽しみとして定着しました。保護者の方から「絆が深まったようです」と言う感想をいただくのが何より嬉しく感じられます。

たかが本。されど本。

一冊が持つ力は時として想像を超えるものがあります。

子どもをひざにのせながら、そして肩を寄せ合いながら一冊の本を楽しむ。

これは、とてもとても至福の時間なのです。

優良PTA文部科学大臣表彰

会員相互の交流と 地域との絆を強めるPTA活動

米沢市立西部小学校教育会 会長 五十嵐 昭彦

一、地域と学校の概要



本校は、校歌の歌詞「藩祖と聖君のおくつき近く」のとおり、上杉家歴代藩主を祀る御廟所の西側に位置しています。校区東側には住宅地、西側には「米沢の味ABC」のA、館山りんごの果樹園が広がっています。城下町の歴史と豊かな自然環境で全校生六

百五十六名の子どもたちは、今日も明るく元気に学校生活を送っています。

PTA活動は、常に子どもたちを中心に据え、西部小学校に通う子どもたち全体が健やかに成長していくよう、子どもたちを取り巻く環境に目を向け、全員の力を結集していくことが大切であると考えています。

こうした認識に立つて、会員相互の交流と地域の絆を強めるコミュニケーションを大切にしなが、活動を展開してきました。

二、特色ある主な活動

(一) 地域児童見守りシステムの運用

平成二十年一月より、総務省のモデル事業として地域児

童見守りシステムの運用が開始されました。総事業費は五千九百万円、運営主体は「西部地区安全安心の地域づくり西部の会」で、PTAはその構成団体です。

〇ICタグを利用した登下校メール配信システム

児童はICタグをランドセルに入れており、登下校時、校門を通ると保護者の携帯電話やPCに登下校メールが自動配信されます。同時に学校のPCにも全児童の登下校状況が記録されます。

〇地域住民に音声で児童の下校を知らせる通学路放送システム

児童の下校開始時間に、地区内に設置された百八十三基のスピーカーから下校開始を知

らせる音楽と児童のアナウンスが流れます。放送を聞いた地域住民や二百名を越える見守り隊が児童の安全な下校を見守ります。



(二) 花と緑におおわれた町づくり

米沢市の環境美化事業を受け、地区内の街路樹のますにマリーゴールドを植え、花と樹木におおわれた地域づくりに取り組んで今年で三年目を迎えました。四月末には芽出した苗を全校生が地域の皆さんやPTAの方々と共にポットに移植する作業を行います。その数何と四千ポット。五月末のPTA早朝作業で街路樹のますに植えました。地域を愛する子どもたちの心にも美しい花を咲かせました。

(三) 読み聞かせ活動

研修部・母親委員会が合同で「読み聞かせワークショップ」を開催し、読み聞かせの技法を学び、朝の全校読書の時間に各学級で読み聞かせを行います。地域の昔語りの会の協力も得、子どもたちの楽しみな時間が広がります。



三、おわりに

常に地域との交流を念頭に置き、共に絆を感じながら活動を展開して来ましたが、この度の文部科学大臣表彰を機に、これからも地域とのコミュニケーションを深め、地域と共に歩むPTAでありたいと思っています。

この度、優良PTAとして
文部科学大臣表彰という素晴らしい賞をいただき、これまで活動に関わっていただいた全てのPTA会員の皆様、先生方、そして地域の皆様に感謝申し上げます。

地域と学校の概要

本校は山形市の南西部に位置し、旧羽州街道沿いに発展した南山形地区、大河ドラマ「天地人」で有名になった長谷堂城を中心とする本沢地区、新興住宅地として発展しつつあるみはらしの丘地区、さらには上山市の山元地区をも学区としております。学区内には、二つの特別支援学校、一つの大学があり、充実した教育環境であると言えると思います。

昭和五十年に南山形・本沢の統合中学校として創立し、

今年で三十六年目を向かい、生徒数は三百十四名、恵まれた環境でのびのびと学校生活を送っているところです。

PTAの組織と主な活動

〈活動方針〉 九中生徒の限りないしあわせを追求する九中PTAは、会員相互の信頼、協力、連携のもとに、その役割を自覚し、PTA活動を強力に推進する。

〈活動目標〉 会員自らを高めるための研修活動や生徒と一体となった新たな活動を活発に行う。教育環境の整備・充実を図るとともに、生徒の健全育成活動を積極的に支援する。会員間の連絡体制を充実するとともに関係機関・団体との連携を強化する。

組織

文化部：PTA会報「ぶどうの丘」年三回発行

生活部：登下校時の立哨指導
あいさつ運動
保体部：PTA球技大会の開催。
母親委員会：「母親塾」の開催。

学年部：一学年親子行事 二学年立志式 三学年卒業祝賀会

特色ある活動として
一、会員による自主自律のPTA運営、PTA総会は年一回、PTA委員会は各活動の中間報告などを含めて年二回開催し、各専門部や学年部との情報の共有化及び連携・協力を図りながら、活動内容の向上を目指しています。会議資料の作成や日程等の調整などPTA活動に係る事務の八割を保護者会員が行っております。PTAの関係行事については、保護者会員が主体

となつて起案し、運営を行っている、PTA総会の出席率は、約九十%となっています。

二、平成十九年度より協力スタッフ制を導入しました。専門部と学年部の事業ごとに一般会員が希望して参加し、専門部活動を行っています。

協力スタッフ制の目的として、すべての保護者がPTA活動に参加することにより、生徒の様子、学校の様子が分かり、生徒の健全育成を目指すPTAの目的達成に役に立っております。PTA活動の役員の負担軽減や、不公平感の是正等も含まれております。

PTA総会後、全会員にアンケートをとり、いずれかの役割分担をお願いする形をとっており、昨年の実績は百七十八名に参加頂いております。

三、PTA学年部が運営する『立志式』学年部の事業については会員の起案による各学年の特色溢れた工夫を重ねて行われています。平成二十一年度は本沢地区の「城山太鼓」を教師と保護者が、三ヶ月前から練習を始めて、生徒の前で披露しました。

四、母親委員会主催の母親

塾は、女性会員を中心とする健やかな生活や生徒の健全育成のためのワークショップを外部から講師を招き年一回実施しております。

五、地域や学区内の各校と連携するPTA活動、学区内三つの小学校、二つの特別支援学校、本校の計六校によりPTA連絡協議会を組織し、PTA同士の交流を推進しています。協議会では、地域全体の教育力の向上を目指してPTA活動における成果と課題の共有化を図るとともに、共通課題の解決を目指して研修会などを行っております。

六、PTA会報「ぶどうの丘」は、学期ごとに年三回、PTA文化部が中心になって発行しています。中学校区内の全戸を対象（三千二百七十一戸）に配布し、PTA活動と生徒の活躍を発信しています。この度の賞を励みに、子どもたちの健全育成のため、これからも学校と家庭・地域の密接な連携を図り、地域で支える学校の伝統を今後にもつなげていきたいと思っています。

「全員参加のPTA活動」をめざして

優良PTA文部科学大臣表彰

山形市立第九中学校PTA会長 千葉 吉則

平成二十二年十一月二十六日、平成二十二年年度優良PTA及び功労者表彰記念式典が東京紀尾井町のホテルニューオータニで行われ、その席上当平野小学校PTAは「日本PTA全国協議会会長賞」を頂戴致しました。県内では当校を含め二校のみの受賞でした。三十五年振りに同賞を頂きましたが、県下約四百四十校という小中学校数を考えた時、この賞の重みがひしひしと感じられ、大変光榮に思っております。推薦して頂きました関係各位には感謝を申し上げます。

一、地域と学校の概要
長井市の西部に位置し、平山地区と久野本地区の二つからなる校区は、豊かな野川と熊野山を望む世帯数七百弱の農村地域です。

明治二十五年に平山小学校と久野本小学校が併合し平野尋常小学校となった創立以来、今年度で百十八周年になります。現在は、全学年とも一学級で、百七十八名の児童が在籍しております。平野小学校の長い歴史の中で「教育平野」と云われ続けてきたよう

に、地域、教職員、保護者の熱心さが伺えます。

二、PTAの組織と主な活動

校区の全戸と全職員がPTA会員です。会議は、総会、三役会、理事会があり、理事会は年間六回行われています。毎年PTA会長が活動のスローガン、重点目標、活動計画を立案し、総会で承認を得ています。

専門部は、研修広報部と保

催し、命を守る意識を高めています。また、四十一回を数えるPTAバレーボール大会の運営や、水泳記録会、運動会への協力も行っています。母親委員会では、絵本の読み聞かせ、親子レクリエーション、子育てセミナーや、土曜ランドでの料理教室などを開催しています。地区委員会は、登校時の立哨を年五回行い、あいさつ運動や、通学路の安全

「親子レクリエーション」

母親委員会が主催し、親子で様々なゲームを楽しむ中で保護者同士の交流も深まり、楽しい夏の夜の一時を過ごします。参加者は百人を越え、母親委員の精力的な取り組みと企画力が評価されています。

「曉登山」

地区委員会が主催し、熊野山頂を目指す中で、親子のふれあい、児童相互、地域の方

日本PTA全国協議会会長表彰

「自分を高める」

長井市立平野小学校PTA会長 色 摩 貞 幸

健体育部、委員会は、母親委員会と地区委員会があります。研修広報部はPTA広報誌を年三回発行しています。全児童から募集した標語を紹介したり、学年部会の親子行事、専門部・委員会の活動内容や、学校行事の様子を掲載しています。また、年に一回講師を招き研修会を開催しています。保健体育部は、夏休み前に「救急法講習会」などを開

確保に努めているほか、登山を実施しています。

三、特色ある活動

「平野地区子どもすもう大会」

PTAと子育て連との共催ですもう大会を行い、健康で明るい子どもたちの育成を図っています。毎年九十名ほどの参加があり、特別指導員の方にお願ひし「すもう心得教室」も取り入れています。

との交流が図られています。

「子育てを語る会」

学年部会ごとに年に一度、子育てを語る会を行っています。保護者同志が、子育ての悩みを少しでも解消できる場として役立っています。

「その他の活動」

特に低学年の親子行事では、交通安全を組み込み、親子で危機意識の向上を図っています。また、自転車に乗る際の

ヘルメットの着用を、総会などで強くお願いしています。なお、本校ホームページではPTA活動について詳しく掲載しています。

四、今後の課題

少子化の時代ではありませんが、幸いにもこの十年児童数の減少はありません。今後も充実した質の高い活動が継続できるよう、PTA運営や行事に対する全会員の理解と協力が必要と考えています。

五、むすびに

このたびの受賞は、永年の取り組みが評価された結果と思っております。本校PTAは、「親は親として、教師は教師として、子どもの幸せのために自分を高める」を設立の趣旨に掲げています。時代は変わっても、この基本姿勢を貫くPTAでありたいと思います。



1. 活動のねらい

地域の伝統行事である「酒田まつり」に参加することを通して、子どもたちの健全育成と自主性を育み、さらにまつりを通して達成感、自己実現の喜びなどによる社会力の向上と、地域とともに歩む学校づくりの一助になればと思っている。同じく、地区自治会の指導を得ながら行う「花いっぱい運動」の活動を通して、地域に支えられている事に感謝し、地域に貢献することの大切さを意識させたいと考えている。

2. 活動の内容

(一) 酒田祭り

毎年実施される「酒田祭り」の山車行列に、生徒会が主体となつて生徒保護者から参加者を募り参加している。

今年で六回連続の参加となり、ここ数年は生徒・保護者あわせて二百人前後の参加人数である。山車行列のテーマを『エコ』と設定した。ペットボトルで作った御輿をメインに、ペットボトルの「エコ竿灯」や空き缶アート、酒田二中学校「等で行列を行っている。また、行列の際にケナフの種を市民に配って、秋まで栽培して頂く。これは、成長

した幹を学校に持ってきて頂き、その繊維から作ったはがきを翌年の祭りで市民に配布するためである。『エコ意識の循環』をねらったものである。PTAとしては山車の行列に参加するだけでなく、学校から山車行列の会場まで御輿などの運搬を行い、母親委員会が給水の為のリヤカーを引いて生徒の支援にあたっている。このような活動が認め

移植し、プランターや校地内に移植・定植を行う。夏から秋にかけて学校の校門付近を花で飾り、地域の方から楽しんでいただいている。秋には球根を植え、春には花で来校者を迎えている。活動は、休日の早朝に設定し、生徒と保護者が数多く参加する。生徒は栽培の経験が少ないので、当日は地区の自治会の方々に講師をお願いし、指導・協力

三、活動上工夫した点やその効果
年二回、PTA理事と生徒会執行部の生徒が話し合いを持っている。当初は、「最近の中学生の意識がどのようなものか知りたい」ということで実施した経緯がある。現在は、酒田祭りへの参加について、執行部から進捗状況を説明してもらい、生徒が立てた目標に対して、達成に向けて

四、活動の成果と課題

成果と言えるほどの顕著で具体的なものではないが、校内生活は安定し保護者からの学校評価も年々向上している。今年度の学校評価では、『お子様は学校生活を楽しんでいる』に対する肯定的な意見が九十四％である。また、『お子様は学校行事に積極的に参加している』がこの三力年で連続して増加している。生徒には各行事参加を通して、地域の一員であることを、学校と協力しながら意識させていきたい。

課題としては、保護者の協力が準備段階では多いが、当日の参加が難しい点にある。生徒とのふれあいが持てる行事自体への参加ができないことはもったいないことだと感じている。また、参加して下さる保護者が固定化してきていることも、課題と感じている。日程調整が出来ないのは仕方がないが、参加しにくい雰囲気があるとすれば解消に努めていきたい。

保護者と生徒で作り上げる

地域参加活動

日本PTA全国協議会長表彰

酒田市立第二中学校PTA会長 吉川 学

られて、創始四百年にあたる平成二十一年度は参加団体二位にあたる『準山車みこし大賞』を獲得した。

(二) 花いっぱい運動

酒田市が行っている「酒田市緑化・美化ボランティア支援制度」に参加して、酒田二中PTAとして「花いっぱい運動」を実施している。年三回、四回の活動で、育苗トレイに種を蒔き、育苗ポットに

いただいている。夏休み中は親子で学校に行き、水掛を行うなどの姿も見られる。また、秋の球根植えでは、年度最後の活動に対してのお礼として、生徒会手作りのメッセージカードが自治会・保護者に記念の品と共に渡される。自治会の方からは生徒に対して感謝の言葉を頂戴し、生徒が地区の一員であることを実感する機会となっている。

のアドバイスをする機会となつていく。この懇談会は、運動会と文化祭を二日間で行なう総合フェスティバルの前にも同様に行っている。どの学校でも行われている様に、審判などを保護者が受け持ち協力しているが、リーダーの子どもたちに「PTAの協力」を意識させて、少しでも視野を広げてもらえればと考えている。



東北P八戸大会に参加して



酒田市立第四中学校
PTA会長

高橋 満 幸

海と大地のハーモニー「子どもとともに」は、よくむ夢・コミュニティー」を大会主題として、第四十二回東北ブロック研究大会八戸大会が、九月十一日〜九月十二日に開催されました。一日目、私は六分科会・健康安全教育に参加しました。第一部の基調講演者は、多様な生活支援の活動を展開しているNPO法人「活き粋あさむし」の三上公子さんでした。

近年、少子高齢化が進み社会全体の「食」が良くない方向に向かっていくのではないかと不安を感じ、子どもの食育・食を通じた楽しい子どもの健康づくりのため、浅虫コミュニティースクールの立ち上げ地元の食材を使った料理づくりなど食育を意識した活動の様子、苦労話などをして下さいま

した。また、高齢者への給食サービスを通じて孤立している高齢者との交流の話など、「食」で地域がつながっていく興味深い話でした。第二部は、「食育」に関してコーディネーターのスマートな進捗と三名のパネリストによる討議でした。盛岡の学校給食の状況や選択できるランチボックスの話、また、東松島市のふた豊富な地場産物や郷土食を地域の協力のもと、学校給食に提供している話などそれぞれ地域の特性を生かした取り組み・工夫努力に大いに勉強になりました。

二日目、元プロ野球選手桑田真澄氏の記念講演は「夢をあきらめない」と題して、高校時代やプロ選手時代のエピソード、米メジャー挑戦の話など「夢」を持つことの大切さを改めて実感しました。

今大会は、二十四年度に酒田・飽海地区で開催される東北大会の準備視察も兼ねており、酒田十八名、飽海三名、鶴岡・東田川を含め庄内四地区三十一名で大型バスでの参加でした。それぞれの会場での案内表示物、受付のレイアウトや配布物、受付での参加者チェックの仕方、会場の机や椅子の配置、駐車場についてなど記録写真とメモを皆でとり今後の準備に役立てたいと思います。

第58回日本PTA研修大会に参加して



新庄市立新庄小学校
PTA会長

田澤 雅 宏

房の国 集い語れば 実りあり！をスローガンに、八月二十七日（金）二十八日（土）の両日千葉県にて全国大会が開催されました。大会初日の分科会では、『遊びから生まれる子どもとの会話』をテーマとして開催された第二分科会へ参加致しました。千葉大学名誉教授藤澤英昭氏の基調講演があり、教育者の視点でコミュニケーションのあり方について問題提起がされた。友達や家族との遊びの中で生まれるちよつとした会話から子どもたちは、あらゆることを学習し、人間として成長していく糧となる。遊びから生まれる何気ない会話や家庭におけるコミュニケーションがいかに大切かを感じさせられた。大会二日目全国から八千人のPTA会員が千葉幕張メッセへ集い全体会が開催されました。開会行事では千葉県民六百二十万人を代表する森田健作知事のパフォーマンスを交えた祝辞がございました。知事のお話の中で、皆さん子どもを怒るとき、「我々が子どもの頃の時代を思い出して下さい！父さん、母さんのどうい

う言葉に腹が立つて、どういう言葉に勇気づけられたか、どういう言葉にやる気をもらったか、そういうことをずっと考えていくと子どもたちを育てる大きなヒントが浮かんでくる。」ある意味前日の分科会より森田知事の祝辞には伝わるものがありました。私も家庭教育の中で子どもをほめるよりも怒るほうが多いのが現状で、子どもを教育する前に私自身が知事の祝辞に教育された。我々の子ども時代親や祖父母より『あたり前のことをあたりまえにできる様に』やさしく、そして思いやりの気持ちで育てられた。お陰で勇気もやる気も頂いた。我々も良き教えを次世代に伝えることが大切であり、子どもたちには優しく接することが必要ではないでしょうか。その後、今大会で楽しみにしておりました『叱って、褒めて、抱きしめる』をテーマとした、日本を代表するテニスプレーヤー松岡修造氏の記念講演があり、ステージ上を汗だくで走りまわりながら体と言葉で表現するテレビと同じ修造氏の姿。講演の中で、子どもたちにとって失敗は大切なことで前向きにとらえるように教えている。失敗してもガッツポーズをとらせる。失敗は次のチャンスです。その他もいろいろなお話がありました。その中で、叱つたら、抱きしめてあげよう。簡単そうだけれど、抱きしめてあげよう。簡単そうだけれど、必要なことであり、今後の家庭教育の中では是非目標にしたいと思いました。最後に二泊三日の大変有意義な全国研究大会では、山形県PTA連合会武田岳彦会長をはじめとする役員、事務局の皆様には大変お世話になりました。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状がおくられましたのでご紹介いたします。

文部科学大臣表彰

◇団体

- 米沢市立西部小学校教育会
- 山形市立第九中学校PTA

日本PTA会長表彰

◇団体

- 長井市立平野小学校PTA
- 酒田市立第二中学校PTA

◇個人

- 深田裕一
(平成21年度県P連副会長・最上地区PTA協議会)
- 村上榮一
(平成21年度県P連副会長・西置賜地区PTA連絡協議会)
- 三浦哲哉
(平成21年度県P連副会長・酒田市PTA連合会)
- 無着道子
(平成19～21年度県P連母親委員長・山形市PTA連合会)

東北PTA連絡協議会表彰

◇団体

- 尾花沢市立常盤小学校PTA
- 酒田市立十坂小学校PTA

◇個人

☆感謝状

- 遠藤正明
(平成18年度～21年度 県PTA連合会会長)

☆表彰状

- 芦野芳男 (平成21年度県P連理事)
- 小林俊一 (平成21年度県P連理事)
- 大宮幸輝 (平成21年度県P連理事)
- 水口直樹 (平成21年度県P連理事)
- 奥山博和 (平成21年度県P連理事)
- 大滝正人 (平成21年度県P連理事)
- 早坂幸起 (平成21年度県P連理事)
- 本間清悦 (平成21年度県P連理事)
- 瀧口 宏 (平成21年度県P連理事)
- 前田なぎさ (平成21年度県P連理事)

優良PTA山形県教育委員会表彰

◇団体

- 尾花沢市立常盤小学校PTA
- 山形市立第九中学校PTA
- 河北町立谷地西部小学校父母と教師の会
- 山形市立大曾根小学校PTA
- 新庄市立本合海小学校PTA
- 長井市立平野小学校PTA
- 米沢市立西部小学校PTA
- 酒田市立十坂小学校PTA

酒田市立第二中学校PTA

山形県PTA連合会会長表彰

☆感謝状 (県PTA連合会役員退任者)

- 遠藤正明
(平成18～21年度県P連会長)
- 深田裕一
(平成21年度県P連副会長)
- 村上榮一
(平成21年度県P連副会長)
- 三浦哲哉
(平成21年度県P連副会長)
- 芦野芳男
(平成21年度県P連理事)
- 大宮幸輝
(平成21年度県P連理事)
- 奥山博和
(平成21年度県P連理事)
- 早坂幸起
(平成21年度県P連理事)
- 瀧口 宏
(平成21年度県P連理事)
- 小林俊一
(平成21年度県P連理事)
- 水口直樹
(平成21年度県P連理事)
- 大滝正人
(平成21年度県P連理事)
- 本間清悦
(平成21年度県P連理事)
- 平尾幸治
(平成21年度県P連理事)
- 無着道子
(平成21年度県P連理事)
- 前田なぎさ
(平成21年度県P連理事)
- 國井晴彦
(平成21年度県P連監事)

☆表彰状 (郡・市PTA連合会より推薦)

- 後藤 修 (山形市PTA連合会)
- 川口 豊 (山形市PTA連合会)
- 佐藤善三郎
(山形市PTA連合会)
- 岩田博之 (山形市PTA連合会)
- 浅野隆志 (山形市PTA連合会)
- 鎌上 徹
(天童・東村山地区PTA連合会)
- 松浦和人

(天童・東村山地区PTA連合会)

- 海老名一志
(北村山PTA連合会)
- 今田浩徳
(最上地区PTA協議会)
- 國分雄一
(最上地区PTA協議会)
- 小口尚司
(西置賜地区PTA連絡協議会)
- 石川原三 (鶴岡市PTA連合会)
- 阿部喜美男
(鶴岡市PTA連合会)
- 寒河江正喜
(鶴岡市PTA連合会)
- 泉川由起
(酒田市PTA連合会)
- 江口信一郎
(酒田市PTA連合会)

第32回全国小・中学校PTA 広報紙コンクール

☆佳作

- 酒田市立松原小学校PTA
- 鶴岡市立鶴岡第四中学校PTA

☆日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞

- 山形市立千歳小学校PTA
- 新庄市立本合海小学校PTA
- 真室川町立安楽城小学校PTA
- 鶴岡市立櫛引東小学校PTA
- 酒田市立亀城小学校PTA
- 新庄市立市新庄中学校PTA
- 最上町立最上中学校PTA
- 米沢市立第四中学校教育振興会

☆山形県PTA会長賞

- 山形市立金井小学校PTA
- 東根市立東根小学校PTA
- 新庄市立萩野小学校PTA
- 鶴岡市立朝陽第六小学校PTA
- 庄内町立余目第四小学校PTA
- 酒田市立富士見小学校PTA
- 酒田市立港南小学校PTA
- 遊佐町立吹浦小学校PTA
- 高島町立第一中学校PTA
- 遊佐町立遊佐中学校PTA

日中友好少年少女の翼に参加して

中国との絆

新庄市立新庄中学校

二年 早坂 郁人

僕は、多くの不安や期待を胸に、この四泊五日を迎えました。今思えば長いようで、本当に短かったと思います。そんな中で僕は数多くのことを学ぶことができました。

まず感心させられたのが、中国の歴史が溢れる建造物です。特に、万里の長城に登ったことが心に残っています。テレビや写真で見えるよりも、壮大な中国の歴史を、肌で感じることができました。

もう一つは、同じ人間としてのつながりです。僕が中国にくる前、一番不安だったのが、中国の中学生との交流でした。しかし、言葉がうまく通じなくても、表情や身振りで伝えあえる、そんな人間としてのつながりを強く実感することができました。これからも、中国と日本の関係が良いままであってほしいと思いました。

最後に、この四泊五日にあたり、支えてくれた人はもちろん、陰で大変な努力を下さった人など、数えきれない人々の協力がありました。それらに対する感謝を忘れず、この体験をこれから活かしたいと思います。

先日は、日中友好「少年少女の翼」に参加させていただき、大変ありがとございました。

出発前の不安げな息子に、親として多少の心配もありましたが、帰国後、「中国に行つてよかった。」と笑顔で話をする姿に、その陰で支えてくださったPTA連合会の方々はじめ、多くの方のお心遣いに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

お忙しい中、御同行くださった遠藤正明会長にも大変お世話になりました。どうぞよろしくお伝え下さいませ。

(早坂 郁人 母)

未来に残る中国研修

鶴岡市立鶴岡第三中学校

二年 鈴木 翔太

今回の研修で多くのことを学びました。その中でも特に驚いたことは少年宮で僕より小さい子供達が書写、墨絵、ダンス、卓球などたくさん練習していることです。中国で二班のガイドをしてくれた香さんが「中国では一人っ子政策で家族に一人しか子供がいません。そのためか親も自分の子供に多くのことを習わせてしまいます。」

と言っていました。その点が、中国の子供は大変だと思いました。

今回、僕は中国に行くことができて本当によかったです。二班の人や中国の友達、その中で僕はみんなと仲よく過ごせたか自信はありませんが、これからの未来に少なからず経験として残ると思います。ありがとうございました。

永遠の宝物

大蔵村立大蔵中学校

二年 渡辺あかり

私はこの日中友好少年少女の翼に参加して、何にも変えられないくらい貴重な経験、そして大切な友達を得ることができました。

この旅に参加する前日などは「全国から集まってくる人たちと仲良くなれるか」「中国の生活や文化についてきちんと学んでくれるか」など、様々な不安がありました。しかし、その不安を和らいでくれたのは同じ八班の友達でした。みんなも私と同じように緊張や不安を抱えていたと思います。だけど、明るく楽しく、お互いの学校のことや家族のことなど、たくさん話をしました。大袈裟かもしれませんが、今会ったのではなく、前から知っている友達だと思つくり、私たちは仲良く、お互いを認めあえるくらいになりました。

私がこの五泊六日の中で特に印象に残っているのは、万里の長城と天安門広場です。万里の長城は、普段使っている教科書に度々出てくるのですが、実際にこの目で見て、とても迫力があり驚きました。登ってみると、とても急な坂道だらけで大変でした。しかし、登り切り、汗をかいたあとの景色は最高でした。今まで見たことのない綺麗な世界が広がっていて、感動しました。天安門

広場は、外から見てもすぐにわかるくらい大きな「毛沢東」の写真がありました。中には日本にはない、中国らしい色使いがされた壁や、唯一、天皇しか座れない黄金の椅子がありました。建物の大きさや、内外装はとも美しく、私の心に残りました。

ほかに、夕食で食べたペキンダックや四川料理も忘れられません。本場のペキンダックは脂がのつて美味しかったし、四川料理は辛すぎてもう食べられなかったけど、これも良い思い出になりました。

今回の旅で、「一生大切な友達」を見つけたことができたし、六日間を共に過ごした仲間にとっても感謝しています。そして、またいつか八班のみんなと再会したいです。

日中友好を通して、聞いたこと、見たこと、感じたこと、学んだことをこれからの生活で存分に生かしていきたいです。そして、今回の日中友好の旅に携わってくれた全ての方々へ感謝します。ありがとうございました。

永遠の糸

新庄市立萩野中学校

二年 梅津 葵美

私は今回の日中友好少年少女の翼に参加して、たくさんのことを学びました。その中でも特に、『チームワーク』と、『友達の大切さ』と、『言葉のすばらしさ』を学びました。『チームワーク』では、一番みんな



で協力したのは、やっぱり合唱だと思ひます。全員が一つになった合唱は、「旅立ちの時」という難しい歌を歌ったのにもかかわらず、最後には、ソプラノ・アルト・男声のすばらしいはもりに、自分でもとても感動しました。ほとんどの人が知らない曲だったのに、たった二三回の練習で、分らないところは友達どうしで教え合い何回もくり返し歌って、あんなにすばらしい合唱ができたのは、とてもすごいことだと思ひしあのメンバーだったからこそ、歌いあげることができたんだと思ひます。合唱が終わったあと、「合唱ってこんなにすばらしいものなんだ、歌ってこんなにすごいものなんだ」と、あらためて思ひました。『友達の大切さ』では、毎日の班行動でも、自由行動でも、身近なところで感じてました。『万里の長城』でも、一人だったら途中であきらめてたと思ひます。友達がいたから、友達の声があったからこそ楽しく笑顔で弱音をはかないで上ることができたのかなと思ひます。

毎日、友達と行動してても「この建物がきれい」とか、「今日の空はきれいだ」とか、「この食べ物がいしそつ」とか、一人で見て一人で「きれい・おいしそつ」って思ひときと、友達とみんなで見てみんなで「きれいだね・おいしそつだね」って思ひときとは、ぜんぜんちがうことに気づきました。一人のときと

二人のときの景色の見え方のちがいはすごくおどろいたし、友達ってすごいなあと思ひました。

中国の中学生とも、会話が英語だったのでもとどいながら、頭をつかいながらの会話でしたがいろいろなお話しができてよかつたと思ひます。中国の中学生は英語がペラペラでしかも発音がとてもよくてかなりおどろきました。私たちもなんとか英語で会話することができました。あまりくわしくお互いのことを知ることとはできなかったけど、自分の趣味ぐらいはお互いに教え合つて楽しく会話することができました。この時は、ちゃんとした言葉でなくても、お互い分かり合えることがあるんだなと感じました。

今回の旅で、目には見えないけど、とても大切な物をお土産として持つてくることができたと思ひます。赤でもなく青でもないけど、『チームワーク』という色の糸、『友達』という色の糸、『言葉』という色の糸、そして『永遠』という色の糸でみんな結ばれているんだと私は思ひます。ぜったいに切れない糸で結ばれているんだと思ひます!!今回学んだことを忘れず、今後の生活にしっかりと生かしていきたいです。



安全互助会から

山形県PTA連合会安全互助会の請求手続きは今年度から変更され、提携保険会社である共栄火災海上保険の汎用の請求書になりました。四月・五月初は様々な問い合わせがありました。担当の先生方のおかげで概ね軌道に乗ったように感じます。感謝申し上げます。

また、平成23年度の加入申し込みの期日も今年度中に提出していただくよう変更になりました。さらにお手数をおかけしますがよろしく願いいたします。

安全互助会は、「保険業法」が平成18年に改定されたことに伴い共栄火災海上保険と契約し運営されています。しかし、来年度には「PTA・青少年教育団体共済法」が施行され、管轄する文部科学省において省令制定の準備を進めています。他県では、法人格を取得し共済事業を再考する動きもありますが、様々な制約があり、過去の自主運営とは明らかに隔たりがあります。山形県は他県状況・情報を把握しながら慎重に検討を重ねたいと思ひます。

請求手続きの留意点

- ① 「事故報告書」「保険金請求書」氏名にはフリガナをお願いします。
※難しい読み方が増えていますのでよろしく願いいたします。
- ② 「診断書」は有料で請求者（保護者）の負担になります。必要かどうか不明な場合は互助会にお問い合わせ下さい。
- ③ 治療が終了したら速やかに請求書を提出してください。

保険金支払い状況

	児童・生徒傷害事故	PTA傷害事故
平成20年度	14,979千円	4,484千円
平成21年度	17,284千円	6,197千円
平成22年度（1月末現在）	13,007千円	3,675千円

各年度に交通事故による重大事故が発生しています。
登下校や外出時には安全意識確認の声かけをして事故防止を！



西置賜PTA連絡協議会
会長
米野 智 弥

第63回 県PTA研修大会小国大会のご案内

西置賜大会で語らうもっちゃん

平成二十三年度の山形県PTA研修大会は小国町総合体育館を主会場に、十月十五日(土)に開催されます。大会のテーマにや分科会の構成は今年度を踏襲し、研修会に継続性を待たせたいと考えております。

また、本紙面でも特集を組んでおりますが、「読書」についても、家庭教育のなかでどのように取り組んでいったらよいかを話し合っていただけの分科会を設ける予定です。

さて、この研修大会の目的は、「子どもを取り巻く環境の変化」に応じて我々PTA会員がどのように活動していけばよいのかを有

識者の講演や優良な実践事例から学び、各地域で実践してもらうことです。

特に近頃は、携帯メール依存症、不登校や引きこもりなど、良好な人間関係を築けない子どもたちが増加している状況です。

さらに、子どもたちが他人との関わりを持たなくなってきたことで、自己中心の価値観で行動することが多くなってしまった結果、規範意識の低下を招いているとも言われております。

このような中で、六十三回目となる西置賜大会では、子どもたちの未来を切り拓く力をどうやって引き出していかを皆様と語り合いたいと考えております。

会場は県南西部に位置し大変遠路になりますが、大会の成功に向け、小国町の会員を中心に、西置賜PTA連絡協議会が地域を上げて準備に取り組んでいるところでございます。

是非、多数ご参加いただけますようご案内申し上げます。

平成22年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員

役員名	氏 名	所属地区PTA	所属PTA	役員名	氏 名	所属地区PTA	所属PTA
会 長	武田 岳彦	山形市PTA連合会	山 五 中	理 事	長南 聡	東田川郡PTA連合会	立 川 中
副会長	青木 哲志	山形市PTA連合会	山 七 中	"	今野 徹	飽海郡遊佐町PTA連合会	蔵 岡 小
"	米野 智弥	西置賜地区PTA連絡協議会	添 川 小	"	豊島 孝宏	県小・中学校教職員代表	山形南小
"	高橋 満幸	酒田市PTA連合会	酒田四中	"	齋藤 賢二	県中学校教職員代表	米沢二中
"	元木 朗博	北村山PTA連合会	楯 岡 中	"	高橋 裕美	山形市PTA連合会	みはらしの丘小
理 事	中村 憲史	上山市PTA連合協議会	上 山 小	"	横山 美香	天童・東村山地区PTA連合会	長 岡 小
"	野川 晶弘	天童・東村山地区PTA連合会	天 四 中	監 事	高橋 和典	山形市PTA連合会	附 属 中
"	田宮 信明	西村山PTA連合会	陵 南 中	"	川合 隆義	上山市PTA連合協議会	上山北中
"	田澤 雅宏	最上地区PTA協議会	新 庄 小	"	山本 正博	山形市PTA連合会	蔵王一小
"	佐藤 浩	米沢市PTA連合会	六 郷 小	事務局長	鈴木 幹雄	山形市PTA連合会	事 務 局
"	市川 良和	東置賜地区PTA連合会	糠野目小	事務局員	佐藤 静子	"	"
"	今野 久良	鶴岡市PTA連合会	温 海 中	"	熊谷 慶子	"	"

あとがき

◆ある市で毎年恒例の教育委員会とPTA会長の「教育懇談会」が開かれた。会長さんからは、PTA活動の様子が熱く語られ、教育委員会の各課長からは適切丁寧な応えに溜飲がさがった。不思議なことに、自信に満ちた会長さんの言葉の裏に、その学校の校長先生の姿が浮かんできた。学校と保護者は、信頼関係に結ばれ一体となって活動しているのだ。PTA会長の言葉は、共に子どもを見つめる校長の思いでもある。

◆県教委の相馬教育長のお話から読書を通して子どもを育てる「読育」の言葉を知った。村山市では、読書環境づくりを進める「読書ンティ」宣言がなされた。県PTA連合会でも今年度から「親子読書」を推進することにした。読書を推進する様々な機関、行政や地域と共同し、連携しながら読書が山形の一つの文化活動として根づき定着することを期待している。

◆今年度は、いじめによる子どもの不幸な出来事が目立った。いじめは子どもの揚々たるせつかくの未来を絶つことにもなる。勿体ない。いじめは絶対に許されるものではない。

(M・S)